

アウクスブルクでの 10 日間

運天 樹里奈

はじめに

アウクスブルクでの 10 日間で私はドイツとの新たな繋がりを得ることができました。昨年、私は大学の交換プログラムでベルリンへ一年間留学をしていました。留学先で出会った多くのドイツ人に親切にもらった経験から、いつか再びこの地に戻ろうと決意していました。地元・尼崎市のアウクスブルク市との交流事業を知った時には、身につけた語学力と経験を活かすことができ、またドイツと日本との親交を深めることに貢献できる絶好のチャンスだと思いました。一年も経たないうちにドイツを訪れることに縁を感じ出発前から意気込んでいました。

1. ホストファミリー

私は 4 才の男の子、8 才の女の子、13 歳の少年のいる 5 人家族の家庭にホームステイをしました。初日は人見知りですぐに隠れてしまう子どもたちでしたが、每晚夕食を共にして食後には庭で遊ぶうちに仲良くなれました。夕食時、家族はいつも今日一日あったことを細かく話して共有していました。一緒に過ごしていない時間に起きた喜怒哀楽を共有する家族の姿に素敵だなと思いました。

近所に住むホストマザーの祖父母とも交流させてもらいました。とくに祖父の方は山登りが趣味という非常に活発な方で週末の自由時間には一緒にドイツ最高峰の山登りに連れて行ってくれました。祖父母の家

での夕食にも招いていただいて、非常に可愛らしいお家を探検させてもらい、ドイツ南部の伝統料理も美味しくいただきました。幸運にもドイツ語が話せたことからか家族の様々なエピソードを語ってもらえるようになるなど、すっかり打ち解けることができました。ホストファミリーのおかげで心温まる日々を過ごすことができました。



ホストマザーの両親宅にて庭での夕食風景

2. アウクスブルクという街

10 日間の視察全体を通して、私はこの地の美しさを感じました。二つの大きな川に囲まれ公園など緑が多く、昔からの建造物が今も使われ中世を思わせる雰囲気漂っていました。市場に至る所で開かれていて、そこに並ぶ旬の食材や花、地元の工芸品など色とりどりで街に華やかさをもたらしていました。

しかし視察をしたことで目に見える美しさだけではないことに気が付きました。貧者の自活を目的とした社会福祉施設フッゲライや 60 年以上続く人形劇、モダンな建築の図書館など老若男女を問わず誰もがより

豊かに暮らせるような工夫が町全体に凝らされていました。

また今回の視察で出会った人びとも皆、親切で温かい方ばかりでした。私が留学していたベルリンは首都であり国際都市であり規模も大きく、様々な人が生活していました。常に何か新しいものを生み出そうというエネルギーを感じる街である一方、そこに住む人びとはどこか冷たく厳しさを持っているように私は感じていました。しかし、アウクスブルクではその反対で寛容さや陽気さを感じさせました。それはこの豊かな暮らしが基盤にあるからなのか、そういった人びとがいるから豊かになるのか、どちらにしても私はアウクスブルクの持つこの風土を魅力的に思いました。



アウクスブルクの街並み

3. その後

帰国した今となってもホストファミリーとの文通や前回のアウクスブルク市の使節団員の方との SNS での交流など、ネットワークが続いていることを嬉しく思っています。

アウクスブルク市との交流を深められたことももちろんですが、これまで共に視察に向けて準備を重ねてきた団員メンバーや尼崎市の職員の方々との交流も私にとって

有意義な時間でした。

アウクスブルク滞在中は特に団員たちと一致団結しお互いに気の置けない仲になれたように思います。帰国後にも定期的に会って近況を話し合えるように今後も続いていけたらと思っています。

おわりに

アウクスブルクの視察を通して、改めて縁の大切さを学びました。もし市報での募集を読んでいなかったら、もし派遣の年度がずれていたら、私は交流事業を知ることにも参加することもできませんでした。気の合う仲間と天気にも恵まれ、無事に充実した交流活動を成し遂げることができました。一方で、縁というものは常に目の前に広がっているように思います。ただそれに気が付くことができたから縁と呼べるようになるのです。縁により出会えた人や経験をいかに大切にできるかが重要なことだと思います。尼崎市とアウクスブルク市との交流が続いてきたのは、縁を大切に繋いでいったからであり、その繋がりの一部となれたことに感謝しています。